

UK Japan symposium on disasters, UK Japan disaster risk reduction workshop, UCL-Tohoku Disaster Risk Reduction Workshop に参加しました(2013/11/21-23)

テーマ: 災害研究におけるロンドン大学と東北大学との協力・連携(IRDR-IRIDeS)

場所: University College London (UCL)

2013年は、日本人として、海外の大学教育をUniversity College London (UCL)にて初めて受けた伊藤博文を含む5人の若い長州藩士が、1863年にイギリスに向けて、横浜港を出発してから150年目にあたり、東北大学里見進総長の出席の下、11月21日にUCLでMOUを締結し、さらに、日英学術交流150周年記念事業・シンポジウムが行われました。また、同時に、22日と23日に、両大学の災害リスク評価、防災・減災に関する研究機関である災害科学国際研究所とInstitute for Risk and Disaster Reduction (IRDR)の研究者の成果発表や共同研究の促進を目的としたワークショップがUCLで開催され、本研究所からは、災害リスク研究部門の今村文彦教授(副所長)、真野明教授、源栄正人教授、菅原大助助教、人間・社会対応研究部門の奥村誠教授、井内加奈子准教授、野内類助教、災害理学研究部門の遠田晋次教授、災害医学研究部門の富田博秋教授、情報管理・社会連携部門の小野裕一教授、寄付研究部門のサッパシー・アナワット准教授が参加し、発表を行いました。(表1)。

21日のシンポジウム(UK Japan symposium on disasters)では、生命科学、物質科学、災害科学の3つの分野におけるUCLや東北大学などの研究者から、計13件の発表が行われました。里見進総長からは両大学の連携・共同研究に関して(写真1)、今村文彦教授からは津波工学の視点からの東日本大震災における多様な災害形態に関する発表(写真2)が行われました。

2日目のワークショップ(UK Japan disaster risk reduction workshop)では、「Earthquake hazards and earthquake engineering」、「Tsunami hazards and tsunami engineering」、「Medical, social and cultural aspects of Disaster」の3つのセッションおよびポスターセッションにおいて、主に東北大学とUCLの研究者や学生による研究成果の発表が計35件行われ(写真3)、災害研究に関する活発な議論が行われました。

3日目のワークショップ(UCL-Tohoku Disaster Risk Reduction Workshop)では、災害科学国際研究所とIRDRの研究者が集まり、将来的な共同研究のプロジェクトや今後の連携に関する具体的な研究テーマや行程について話し合いを行い(写真4)、1)被害関数の発展、2)災害の中期的・長期的な回復、3)警報や政策、4)巨大イベントおよび小規模イベントの変動、の4つプロジェクトが提案されました。次回は、2014年11月に、東北大学において開催される予定です。



写真1 里見総長による東北大学とUCLとの連携に関する発表



写真2 今村教授による東日本大震災における多様な災害形態に関する発表



写真3 ワークショップ
(2日目ポスター会場にて)



写真4 ワークショップ (3日目)

表1 災害科学国際研究所の発表者リスト (発表順)

名前	発表タイトル
今村文彦 教授	Hazard of the 2011 Tohoku earthquake tsunami and its induced multiple disasters & Disaster Digital Archive for the 2011 Tohoku earthquake and tsunami
小野裕一 教授	Expectations for the World Conference on Disaster Risk Reduction to be held in Sendai, Japan, 14-18 March 2015 & panelist
遠田晋次 教授	The 2011 Tohoku earthquake: what we learned from the gigantic earthquake
奥村 誠 教授	Panelist
源栄正人 教授	Building damage during the 2011 Tohoku Earthquake and Earthquake Early Warning Systems in Japan.
真野 明 教授	Large scale scouring by the 2011 Tohoku Tsunami
サッパシー・アナワット 准教授	Recent developments on tsunami fragility curves through the collaboration between UCL and IRIDeS
富田博秋 教授	Psychosocial postventions following the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami
野内 類 助教	Rethinking of disasters from psychology and cognitive neuroscience
井内加奈子 准教授	Panelist
菅原大助 助教	Tsunami deposits and their numerical modeling: case study on the 2011 Tohoku-oki tsunami in the Sendai Plain

詳細は、下記のUCLのウェブページをご参照下さい。

1日目 <http://www.ucl.ac.uk/rdr/events-news-publication/uk-japan-symposium-disasters>

2日目 <http://www.ucl.ac.uk/rdr/events-news-publication/uk-japan-disaster-risk-reduction-workshop>

3日目 http://www.ucl.ac.uk/rdr/events-news-publication/ucl_tohoku_disaster_risk_reduction_workshop

文責：サッパシー・アナワット (寄付研究部門)